令和３年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　京都府　】

学校名【　京都府立亀岡高等学校　】

１ 実践テーマ	【　Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ　】
２ 実施対象者	「スポーツⅡ」選択者　３５名
３ 展開の形式	（１）学校における活動 ①　教科名（　スポーツⅡ　　）
４ 目　標 （ねらい）	（１）オリンピック・パラリンピックスポーツの実践を通して、スポーツの持つ奥深さを体感し、オリンピック・パラリンピック東京大会への興味関心を高める。 （２）パラスポーツの実践を通して、障がい者に対する理解を深め、共生社会を作っていく姿勢や心を育てる。
５ 取組内容	（1）ブラインドサッカーの実践（１学期） （2）ユニバーサルホッケーの実践（２学期） （3）ボッチャの実践（２学期） 「スポーツⅡ」の授業において、上記（１）（２）（３）の３種類のスポーツを実施した。単発の体験型の授業にならないように、導入・展開・実践を長期的に計画し、基礎技術の習得、戦術の理解、作戦の立案と試合の実践へと展開し、各種目の特徴や面白さを実感できるように進めた。
６ 主な成果	（1）ブラインドサッカー 不安や恐怖心が強いため、積極的に取り組むことができなかったという前年度の反省を踏まえ、細かく段階を設定して授業を展開した。どの生徒も最初は消極的であったが、視覚情報が無い中で動く練習や、サポートの声出し練習、自分の動画を見て改善を図るなど、授業時数を重ねるうちに恐怖心が減り、意欲的に活動することができるようになった。授業を通して、競技の難しさを実感することができ、パラリンピックへの興味や障がい者への理解を深めることができた。 生徒の感想 ・　視覚がない状態では方向やボールの位置がわからず、動くことが難しかった。サポートの人の指示の仕方やタイミング、声量の重要性を感じることができた。 ・　最初はボール扱いが安定せず、ボールを失うことが多かったが、授業の中で基礎練習を繰り返し行うことでパ

ス・ドリブル・シュートなど様々なプレーをすることができるようになった。

・　目が見えないことがこれほど怖いことだとは知らなかった。視覚障がい者が、この状態で日常生活を送っていることに驚きを感じた。

（2）ユニバーサルホッケー

　長いスティックでボールをコントロールしたり、強く打つことは難しかったが、段階的にドリブル練習をしたり、簡単なパスから複雑な連携のパスへと課題を設定していくことで、基礎的な技術を身につけ、質の高いゲームをすることができるようになった。教材自体が非常に面白く、生徒の興味を惹きつけるものであった。

　昨年度は不慣れな長いスティックを操作するということで、怪我をしてしまうケースがあったため、今年度は厳密にルールを設定し、危険な場面があれば一旦止めて注意をすることを徹底し、安全への理解も深めることができた。

（3）ボッチャ

　生徒の認知度も高く、非常に関心が高い状態で授業を展開することができた。実際にやってみると、テレビで見ている以上に繊細な技術が必要で緻密な競技であり、思ったようにプレーできないことが多々あり、多くの生徒が基礎技術の重要性を実感しているようであった。また、チームで作戦を立てて、議論しながらゲームを進めることができるというスポーツの特徴があるので、授業が盛り上がり、パラリンピックへの興味をさらに高めることができた。

	生徒の感想 ・　思うような投げができなかったり、相手チームの投げが良かったりして、その都度、よりよい一投をチームで考えて実行していくところにボッチャの面白さを感じた。 ・　作戦や狙いを持って挑んでも、投げる基礎技術が低すぎて、思ったような展開にならないことが多かった。 ・　相手のチームの得意・不得意をしっかり把握して、次の展開を読みながらゲームを進めていくことが重要だと思った。
７ 実践において工夫した点（事業の特色）	（１）　授業の狙いの明確化、授業前後の発問、ふり返りを丁寧に行い、気づきを深められるように取り組んだ。オリンピック・パラリンピックの情報を提示したり、障がい者の視点を持たせたりして、「４　目標」（１ページ目に記載）を達成できるように意識した。 （２）　昨年度は本取組の中で怪我をするケースがあったので、今年度はより安全への意識やルールの意義、道具の使い方などを理解させて授業に取り組んだ。こまめに声をかけることで意識が高まり理解を深めることができたと感じている。
８ 主な課題等	（１）　２０名前後の授業であればうまく授業を展開できるが、対象生徒が多くなった場合、専用の道具が不足し、授業を充実させることが難しくなる。規模に応じて授業の準備や工夫が必要になる。 （２）　どの競技においても基礎技術の習得が非常に重要である。高度なゲームを展開したり、作戦を立案して実行していこうとすると、前段階の基礎練習の時間をしっかりと確保し、コツをわかりやすく教えなければいけない。体育で扱う教材ではないため、教員自身もあまり慣れていないことが想定されるので、体育の授業をするとき以上に十分な授業研究が必要である。
９ 来年度以降の実施予定	次年度も同様にスポーツⅡの授業で実施する予定。今年度の授業の反省を活かし、さらに内容を深化させて実施する予定だが、対象生徒が大幅に増える見込みのため、十分な準備が必要となる。